NEWSLETTER

2017.8.28

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

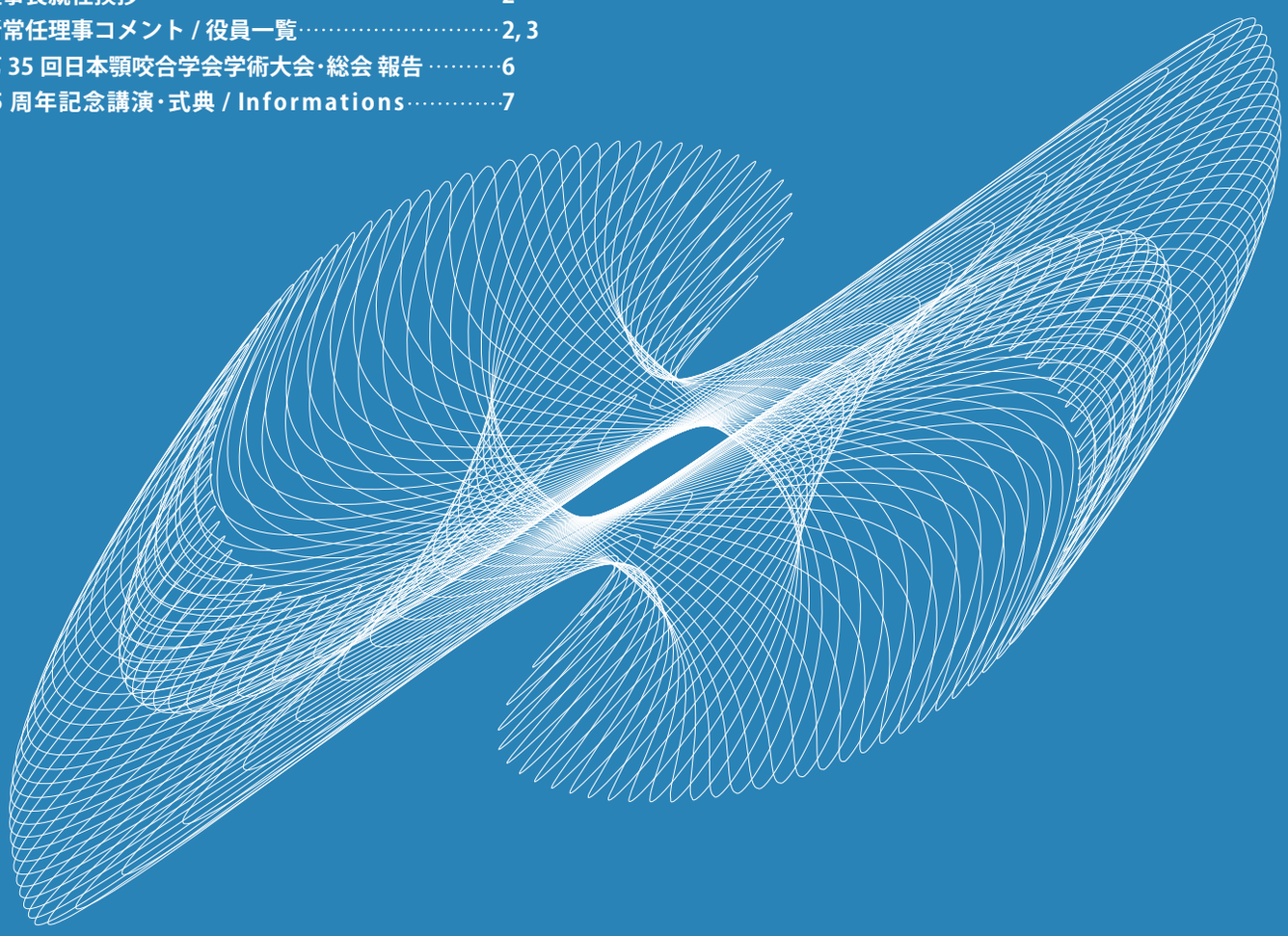
78

第18回 日本顎咬合学会咬合フォーラム

真・顎咬合学 咬合の潮流を再考する　～一歯から全身まで～

プログラム / 抄録……4, 5

● 理事長就任挨拶 ……2
● 新常任理事コメント / 役員一覧……2, 3
● 第 35 回日本顎咬合学会学術大会・総会 報告 ……6
●35 周年記念講演・式典 / Informations……7



特定非営利活動法人　日本顎咬合学会　ニュースレター No.78

〒102-0093　東京都千代田区平河町 1-8-2　山京半蔵門パレス 201　TEL：03-6683-2069　FAX：03-6691-0261

ホームページ URL：http://www.ago.ac/

第 14 代 日本顎咬合学会 理事長就任挨拶

輝ける日本の歯科口腔臨床に向けて

日本顎咬合学会 理事長　上田 秀朗

第 14 代日本顎咬合学会理事長に就任いたしました上田 秀朗でございます．学会の発展のために全力を尽くして参りますので，会員の皆様にはこれまでと変わらず会の運営にご協力くださいますよう謹んでお願い申し上げます．

さて，先の 6 月 10，11 日に行われました第 35 回日本顎咬合学会学術大会・総会では 5,000 名を超える参加者を得て盛況のうちに終了することができました．これもひとえにご参加いただいた皆さまのおかげです．また，来たる 10 月 1 日には石川県金沢市にて第 18 回咬合フォーラムが開催されます．今年のテーマは「真・顎咬合学 咬合の潮流を再考する ～一歯から全身まで～」です．経験豊富な３名の先生がそれぞれの観点から咬合論を解説していただけることと思います．

咬合フォーラムのテーマにもありますように，今年度より日本顎咬合学会では 5 カ年計画として「真・顎咬合学」を制定いたしました．これは 2012 年に提唱された「新・顎咬合学」を継承し，過去 5 年間の活動をさらに発展させようというものです．つまり，会員には顎咬合学の「真髄」を理解して臨床で応用していただき，国民，患者へ顎咬合学の「真心」を伝えていただきたいと思います．特に本会の若手歯科医療専門職には人間としてはもとより，歯科医療のプロフェッショナルとして，次世代の歯科界を引っ張っていってもらいたいと思います．そのためには，次世代の若手に魅力ある将来像を提示し，それを達成するための教育研修体制の構築を目指しております．

現在歯科界は，基礎と臨床，開業医と大学，医科との連携や，スタディーグループ同士の交流が活発に行われています．そのため，以前と比較して各々の特殊性，独自色は薄くなり，それらの垣根はずいぶん取り払われてきたように思われます．歯科界を取り巻く全員が，協力して歯科界を良くしていこうという雰囲気ができてきているのではないでしょうか．本学会のように全体が同じ方向を目指し，協動して盛り上げ明るい未来を目指していく努力が歯科界全体を活性化し，その結果日本の歯科臨床が輝くものになると確信しております．

先人が積み重ねてきた伝統を重んじる一方で，我々は時代のニーズに合わせて常に変化していかねばなりません．現状を打破するためにはたゆまぬ努力が必要です．輝ける日本の歯科口腔臨床を構築することで歯科界，ひいては日本全体がより明るく元気な社会となるよう共に勉強していきましょう．

新常任理事コメント

鍵和田 優佳里

日本顎咬合学会が目指す認定歯科衛生士は，乳幼児から高齢者まで各年齢ステージの患者さんの健康維持をサポートし，質の高い生活を営むことに寄与できる歯科衛生士です．歯科衛生士部会では，この理念のもと認定歯科衛生士の教育研修会や学術大会のプログラム提案などを行ってきました．今後も認定試験の改変や教育研修の充実を図り，支部との連携を取り，会員歯科衛生士のさらなる発展のために，鋭意努力させていただく所存です．

関野　愉

ここ数年，日本顎咬合学会では編集委員を務めてきました．私の場合，専門が歯周病学なので分野が異なる内容の論文も多いのですが，基本的な学術論文の様式は決まっているので，その部分では貢献してきたという自負があります．また，臨床医主体の学会でありますので，症例主体のプレゼンテーションが多いなかで，自分の講演においても極力学術的な内容になるように努力してまいりました．今回の新理事就任後も，基本的には変わらぬ姿勢で，学会に貢献していきたいと考えています．

田中 憲一

九州沖縄支部長を５年間務めさせていただき，その間，俵木勉前支部委員長の下で支部運営に求められるものと，今後の展望について学ばせていただきました．上田秀朗理事長が「真・顎咬合学」を制定され，歯科界の活性化と臨床力の向上をキーワードに挙げられています．支部委員会の先生方のご協力を賜り，６支部がより活性化し潤滑に運営していけますよう努力させていただく所存でございます．

中島 稔博

この度，日本顎咬合学会学術委員長を拝命いたしました，中島稔博と申します．今回このような大役を仰せつかることに，大変プレッシャーを感じておりますが，上濱前理事長が掲げられております，「新・顎咬合学」の推進も継続して行いつつ，上田新理事長のスローガンであります，学会会員の臨床力向上と歯科界の発展に，微力ではございますが，精一杯努力させてただく所存です．なにぶん初めてのことばかりで，先生方のお力添えが必要となることも多いと存じますが，何卒宜しくお願い申し上げます．

難波 錬久

上田秀朗理事長の命題である「真の顎咬合学が創る歯科界の明るい未来を目指す」を基本方針として，中島稔博学術委員長をはじめ，学術委員の先生方と学術分野のさらなる充実と発展のため工夫と努力を積み重ねていきたいと思います．

村田 雅史

上田秀朗理事長の下，甚だ微力ではございますが諸先輩方が築いてこられた歴史ある学会の一員として「臨床力の向上による歯科界の活性化」を推進すべく，一生懸命会務にあたる所存です．今回，田中晃伸前認定審議運営委員長の後任として各支部認定医研修事業，認定試験，指導医研修会等，多岐にわたる業務を担当いたしますが，平井 順認定審議会委員長の御指導の下，歯科技工士部会，歯科衛生士部会，各支部と連携し，委員会の先生方にご協力を頂きながら認定事業の円滑な運営に務めたいと思います．

■ 理事長	上田 秀朗		■ 次期理事長	黒岩 昭弘		■ 前理事長	上濱 正		
■ 副理事長	俵木 勉	貞光 謙一郎	倉富 覚			■ 専務理事	金沢 紘史		
■ 常任理事	上野 道生	平井 順	岸本 英之	松崎 浩成	岩崎 貢士	登内 敏夫	赤田 尚久	難波 錬久	関野 愉
	中島 稔博	田中 憲一	村田 雅史	榊原 功二	鍵和田 優佳里				
■ 理事	秋山 浩教	阿部 伸一	石原 研	鵜飼 誠	太田 祥一	勝部 義明	権 暁成	小林 明子	小林 隆
	櫻井 健次	佐藤 勝史	春藤 憲男	菅野 詩子	鈴木 宏樹	中尾 潔貴	長阪 信昌	中山 隆司	中山 直樹
	林 美穂	樋口 惣	前川 泰一	前田 武将	三輪 一雄	安光 崇洋	山口 康介	山崎 一人	
■ 監事	河津 寛	小林 和一	富野 晃	渡辺 隆史	南 清和				
■ 顧問	菅野 博康	河原 英雄	岩田 健男	山地 良子	鈴木 尚	桑田 正博	林 崇民		
■ 相談役	石坂 芳男	垣添 忠生	金子 雅俊	栗原 正紀	佐々木 一高	鈴木 豊	竹内 孝仁	Henry Takei	Anthony Rowley

第18回 咬合フォーラム

真・顎咬合学 咬合の潮流を再考する　～一歯から全身まで～

2017.10.1 Sun
10:15~16:30（開場 9:50）
石川県立音楽堂（金沢市）

学術委員長挨拶

中島 稔博

咬合フォーラムも今回で 18 回目を迎えました．これもひとえに，先生方のご協力の賜物であると感謝を申し上げます．本年 6 月に開催された学術大会では，メインテーマを「新・顎咬合学　―国民の健康・幸福に貢献する―」に掲げ，多岐ににわたるジャンルで講演および発表が行われ，盛会のうちに閉会することができました．その中で，顎咬合学も次のステージに差し掛かっていることを感じました．そこで，この潮流を引き継ぎ，さらなる顎咬合学を探求すべく，今回の咬合フォーラムでは「真・顎咬合学　咬合の潮流を再考する ～一歯から全身まで～」というテーマで開催させていただくこととなりました．「新・顎咬合学」を「真・顎咬合学」とし，顎咬合学をさらに深く掘り下げてみたいと考えております．今回は加藤均先生（東京証券業健康保険組合診療所），桑田正博先生（日本顎咬合学会顧問），寺西邦彦先生（東京都ご開業）の 3 名の先生にご登壇いただき，一歯単位と全身の健康の相関関係を紐解いていただきます．一歯の形状や咬合面形態などミクロな部分から，咬合全体に至るまで，ひとつの，咬合という観点においても様々なことが見えてくると思います．

また，細山愃先生（新潟県燕市ご開業）に座長をお願いし，3 名の先生方のご講演をわかりやすく総括していただきます．

最後に今回の開催にあたり，ご尽力いただきました三輪一雄中部支部長，山崎一人支部委員会副委員長，ならびに支部会員の先生方に厚く御礼申し上げます．

Program

座　長：細山　愃

1961 年　東京歯科大学卒業
燕市　細山歯科医院

10:20~11:50

主機能部位に基づく実践咬合論　―咬合面形態のあり方を求めて―

加藤 均
東京証券業健康保険組合診療所
第 2 診療部部長

日々の臨床と調和した具体性のある咬合理論を長年にわたり追求したところ，「主機能部位」と巡り合ったことで，歯列全体の理想的咬合関係を論ずる従来の咬合論とは一線を画した実践的な咬合論にたどり着くことができた．

主機能部位とは，咀嚼時における食物の粉砕が歯列上でランダムに行なわれているものではなく，僅か 5mm 四方程度の範囲が中心となり無意識のうちに営まれていることを発見し，名付けた部位である．天然永久歯列での主機能部位の多くは第一大臼歯部の緊密に咬合する機能咬頭間に局在し，同部位は進化学的にも機能的な形態であることが明かとなっている．第一大臼歯部の主機能部位は長年機能する中で，同部位での緊密な咬合が欠如すると，後方歯部へ移動することがあるが，必要があれば，歯冠修復によって第一大臼歯に適切な咬合接触と緊密な咬合を回復することで，元あった部位に戻り，咀嚼時に適切に機能する咬合面形態の実現が可能となる．

主機能部位は咀嚼を円滑に営むために大切な部位であるとともに，咀嚼力が常に集中する部位でもあることから，食片圧入，修復物の破損，歯根破折等のトラブルの原因ともなり，さまざまなライフステージにおいて適切に管理すべき重要事項の一つである．

今回は，そのような主機能部位に基づいて，顎口腔系が咀嚼機能を円滑に営むための咬合面形態のあり方と実現法を解説する．

12:50~14:20

集約されてきた“臨床咬合論” ナソロジー，P.M.S. そして Functionally Discluded Occlusion

桑田 正博
クワタカレッジ

1960年代初頭, アメリカで見てきた“ナソロジー学”のセンセーショナルでインパクトのある伝えられ方には衝撃を受けたものである.

ナソロジーの躍進があったその頃，同じく飛躍的進歩のあった精密鋳造技術がナソロジー理論に基づく臨床術式を発展させた．クラウンの精密な適合と精密な咬合面形態の付与（cusp ridge waxing）その技法（drop wax cone technique）を開発した Dr. E. V. Payne も歯科史に名を留めている．それを卓越した技能を有し 3 点接触咬合（tripodism）などを提唱した，Dr. P. K. Thomas らが紹介することでナソロジーが広く世界に伝えられることになっていった.

一方，Dr. L. D. Pankey，Dr. A. W. Mann らが提唱するオクルーザルリコンストラクション（1961）の考え方に，咬合理論の父と言われる Dr. C. H. Schuyler が，アンテリアガイダンス，エリアオブセントリックの概念を持って参加したことから，生理学的咬合論として体系付けられ“P.F.M. テクニック”として進化させてきた.

修復治療とは「天井と底の計画を明確にすること」. 天井とは，上下歯のかかわるところ“咬合”であり，底とは，歯周組織と関わるところ“Emergence Profile”である.

Dr. C. Schuyler，Dr. P. K. Thomas，Dr. S. Wagman，そして Dr. R. S. Stein らと臨床を共にする中で彼らの臨床的な要求に応えるために長年にわたって工夫し，進化させてきた咬合の臨床術式が“Functionally Discluded Occlusion”である．この機会にそれらの経緯についてもお話ししたいと思う.

14:30~16:00

日常歯科臨床における咬合の捉え方と与え方

寺西 邦彦
寺西歯科医院

高齢社会を迎え，長期にわたる歯列の保全が歯科治療の目標の一つとしてクローズアップされてきているようである．そして，カリオロジーの発達，歯周治療の進歩，さらには包括的歯科臨床への取り組みといった大きな流れは，以前，歯牙喪失の主因であったう蝕および歯周疾患を減少させ，相対的に欠損症例が減少する傾向にあるように思われ，この困難であった目標を容易にしつつあるように思われる.

一方，歯牙破折や咬合性外傷を伴う歯周疾患等，力の問題に起因すると思われる歯牙喪失は依然として存在している．また多数歯欠損症例の多くが上下顎関係に問題のある症例（上顎前突症例およびオープン・バイト症例等）が多いことからも，臨床における「力のコントロール」（広義の意味での咬合のコントロール）が不可欠と思われる.

しかしながら，咬合に関しては過去から現在に至るまで，多くの咬合論が存在しており，日常臨床における咬合治療の積極的な導入を困難にしているのも事実と考えられる．さらには，咬合といっても，それには生理的な咬合（日常の咀嚼運動）のみならず，精神的な問題に起因すると思われる，いわゆるパラファンクション（非生理的な顎運動）も存在し，歯科臨床を困難にさせていることも現実である.

そこで今回は，当院で日常行っている咬合診査・診断および咬合治療について紹介させていただき，日常臨床において最低限抑えておかなければならないと思われる，咬合治療の臨床的基準を述べさせていただきたいと思う.

16:00~16:30 ディスカッション

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

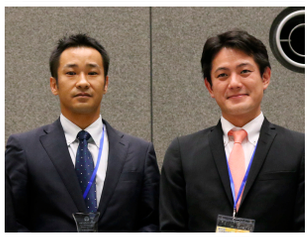
第 35 回 日本顎咬合学会学術大会・総会 報告

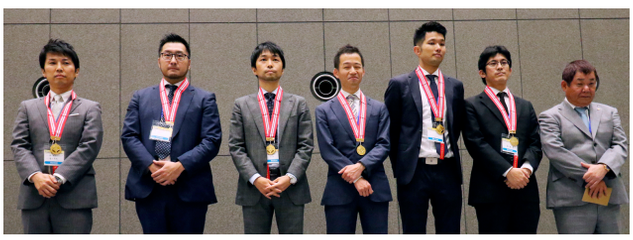
6 月 10 日，11 日，東京国際フォーラムにて，第 35 回日本顎咬合学会学術大会・総会が開催されました．2 日間で，5,113 名の参加者をお迎えして，成功裡に閉会いたしました．今回はテーマを「新・顎咬合学 ―国民の健康・幸福に貢献する―」とし，Christian S.Stohler 先生の特別講演をはじめ，池山和幸氏，植田耕一郎先生，米山武義先生の公開フォーラムなど，多くの貴重な講演，そして，臨床に即した，レベルの高い口演発表，ポスター発表が行われました．参加いただきましたすべての関係者に感謝申し上げます．

【参加者内訳】　歯科医師 3,016 名　歯科技工士 418 名　歯科衛生士 1,013 名
歯科助手 157 名　賛助会員 181 名　準会員・臨床研修医・学生 281 名

第 35 回 学術大会 表彰者一覧

若手歯科医師の登竜門 支部選抜優秀発表者	
橋本 雅人（歯科医師） 松木 良介（歯科医師）	矢澤一浩賞
学会誌優秀論文賞	
吉野 晃 山川 祐喜子	歯科医師部門
第 35 回学術大会優秀発表者（口演）	
小野寺 良修（歯科医師）	張 凱榮（歯科医師）
松木 良介（歯科医師）	松本 篤樹（歯科医師）
糠澤 真壱（歯科医師）	椋 誠二（歯科医師）
島田 卓也（歯科医師）	重村 宏（歯科技工士）
藤田 孝一（歯科医師）	水島 優佳（歯科衛生士）
第 35 回学術大会優秀発表者（ポスター）	
佐藤 孝仁（歯科医師）	小西 浩介（歯科医師）
坂元 麻衣子（歯科医師）	鎌田 恵梨子（歯科衛生士）
岡村 哲也（歯科医師）	
メーカー賞	
坂元 麻衣子（歯科医師）	カボデンタル賞
吉野 晃（歯科医師）	モリタ賞
川口 武史（歯科技工士）	モリタ賞
波潟 恵理（歯科衛生士）	ヨシダ賞
論文賞	
坂元 麻衣子（歯科医師）	
特別賞（デジタル映像論文）	
尾崎 洋美（歯科医師）	高森 亜矢子（歯科医師）



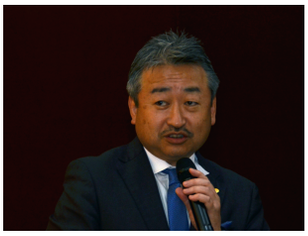


35 周年 記念講演・式典

6 月 9 日に東京国際フォーラムにて 35 周年記念講演を開催しました.「新・顎咬合学を総括し伝承する」をテーマに，黒岩昭弘先生を座長とし，増田純一先生，渡辺隆史先生，上濱 正先生，上田秀朗先生に講演していただきました.

講演後，会場を帝国ホテルに移し，35 周年記念式典を行いました．当学会に関わってこられた 170 名の方々に参加いただきました．参議院議員山田 宏先生をはじめとする，各界を代表する来賓の皆様から祝辞をいただき，盛会のうちに終了いたしました.

増田純一先生



渡辺隆史先生

上濱 正先生

上田秀朗先生

2017.6.9　帝国ホテル東京　富士の間

Informations

2017 年度　認定医・認定歯科技工士・認定歯科衛生士検定試験結果報告

今年度の認定医･認定歯科技工士･認定歯科衛生士検定試験は 4 月 9 日(日)に JA 共済ビルカンファレンスホール（東京）で実施されました．その後，4 月 9 日（日）の認定審議会・認定審議運営委員会・歯科技工士部会・歯科衛生士部会の合同委員会において厳正な採点が行われ，その結果は 4 月 12 日（水）開催の常任理事会で審議され，新たに認定医 107 名，認定歯科技工士 16 名，認定歯科衛生士 10 名が承認されました.

認定された皆様方の健闘を讃えるとともに，今後のご活躍を期待しております.

（認定審議会委員長　平井 順）

【認定医検定試験】	受験者 119 名・合格者 107 名
【認定歯科技工士検定試験】	受験者 18 名・合格者 16 名（100 点満点 4 名）
【認定歯科衛生士検定試験】	受験者 10 名・合格者 10 名

特定非営利活動法人　日本顎咬合学会　News Letter 78
発行日：2017 年 8 月 28 日
発行者：上田 秀朗
特定非営利活動法人　日本顎咬合学会
〒 102-0093　東京都千代田区平河町 1-8-2　山京半蔵門パレス 201
TEL：03-6683-2069　FAX：03-6691-0261　E-mail：nichigaku@ago.ac

Printed in Japan

◆ 2017 年度　各支部の事業予定（自　2017 年 4 月 1 日～至　2018 年 3 月 31 日）

支部名	区　分	開催日	会　場	内容，講師等
北海道	認定医 教育研修会	2017 年 10 月 28 日（土）	北海道歯科医師会館 視聴覚室 （北海道札幌市）	テーマ：「咬むことから健康に貢献する健口長寿」 貞光 謙一郎 先生（奈良県開業） 古谷野 潔 先生（九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座教授）
	支部学術大会	2017 年 10 月 29 日（日）	北海道歯科医師会館 大講堂 （北海道札幌市）	特別講演　南 清和 先生（大阪府開業） 歯科衛生士向け特別講演　加々美 恵一 先生（大阪府開業）・俵木 勉 先生（埼玉県開業） ハンズオン　野谷 健一 先生・野谷 健治 先生・佐々木 ミッシェル 先生・門 貴司 先生 会員発表 5 題
東北	認定医 教育研修会	2017 年 11 月 4 日（土）	宮城県歯科医師会館 （宮城県仙台市）	テーマ：「咬むことから健康に貢献する健口長寿」 貞光 謙一郎 先生（奈良県開業） 黒岩 昭弘 先生（松本歯科大学理工学講座・歯科補綴学講座教授）
	支部学術大会	2017 年 11 月 5 日（日）	宮城県歯科医師会館 （宮城県仙台市）	テーマ：「東北から発信する『カリエス＆フルデンチャー』 ―東北支部新刊書籍の著者講演を聞こう！―」 依頼講演　佐藤 勝史 先生（山形県開業）・井上 和 先生・杉山 豊 先生（宮城県開業） 会員発表 9 題
関東 甲信越	認定医 教育研修会	2017 年 12 月 9 日（土）	ベルサール東京日本橋 （東京都中央区）	テーマ：「咬むことから健康に貢献する健口長寿」 菅野 博康 先生（宮城県開業） 古谷野 潔 先生（九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座教授）
	支部学術大会	2017 年 12 月 10 日（日）	ベルサール東京日本橋 （東京都中央区）	特別講演　歯科医師対象 2 題、歯科医師・歯科技工士対象 2 題、歯科衛生士対象 2 題 ハンズオン 3 題、・テーブルクリニック 4 題 ランチョンセミナー 2 題 会員発表 6 題
中部	認定医 教育研修会	2017 年 11 月 11 日（土）	ジーシー名古屋営業所 （愛知県名古屋市）	テーマ：「咬むことから健康に貢献する健口長寿」 貞光 謙一郎 先生（奈良県開業） 黒岩 昭弘 先生（松本歯科大学理工学講座・歯科補綴学講座教授）
	支部学術大会	2017 年 11 月 12 日（日）	ウインクあいち （愛知県名古屋市）	特別講演　谷口 威夫 先生・山岸 貴美恵 さん（長野県開業） 会員発表 5 題
近畿 中国 四国	認定医 教育研修会	2017 年 10 月 21 日（土）	AP 大阪駅前梅田 1 丁目 AP ホール （大阪府大阪市）	テーマ：「咬むことから健康に貢献する健口長寿」 菅野 博康 先生（宮城県開業） 古谷野 潔 先生（九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座教授）
	支部学術大会	2017 年 10 月 22 日（日）	AP 大阪駅前梅田 1 丁目 AP ホール （大阪府大阪市）	依頼講演　南 清和 先生（大阪府開業）・小林 実 先生（大阪府開業） 歯科衛生士向け講演　中山 隆司 先生・原野 晶代 さん 会員発表 5 題
九州 沖縄	認定医 教育研修会	2017 年 11 月 25 日（土）	天神ビル会議室 10 号室 （福岡県福岡市）	テーマ：「咬むことから健康に貢献する健口長寿」 菅野 博康 先生（宮城県開業） 黒岩 昭弘 先生（松本歯科大学理工学講座・歯科補綴学講座教授）
	沖縄県主催 認定医研修会	未定	未定 （沖縄県那覇市）	未定
	支部学術大会	2017 年 11 月 26 日（日）	天神ビル会議室 10 号室 （福岡県福岡市）	特別講演　奥野 幾久 先生（大阪府開業） 会員発表 8 題

◆ 会員カード発行のお知らせ

平成 24 年度より会員カードを発行しております．学術大会・咬合フォーラム・研修会などの受付手続きや単位申請（申請方法は会によって異なります）に必要となりますので開催時には必ずご持参頂きますようお願いいたします．

◆ 学会ホームページの「会員専用ページ」をご利用ください

- 勤務先・自宅・お届け先などご登録内容の確認・変更
- 認定資格・単位取得状況の確認
- 年会費のお支払（カード決済），お支払状況の確認

※コンビニ・郵便振替をご希望の方は事務局までご連絡ください

- 2017 年度の年会費の納入がまだお済みでない方は，至急お振込みをお願いいたします．
- 過去に未納分がございますと，認定試験，認定医の更新，学術大会への参加ができませんのでご注意ください．
- 学会からの発送物は郵便及びメール便を利用しています．メール便の場合は転送されませんのでお届けできない場合がございます．勤務先の変更，転居等登録内容に変更が生じた場合は，至急変更のお手続きをお願いいたします．
- 「会員専用ページ」のご利用には，会員 ID（会員 No）とパスワードが必要です．ご不明な場合は事務局までお問い合わせください．